

北 ぞらくろあ

第61号 2021年4月1日（毎月1日発行）

ふるさとの開拓者④ 番外編

「赤い月」（なかにし礼著、二〇〇一年発表）

王道楽士、満州国という幻想

開拓民の物語ではないが、満州移民のことを書いた小説に、なかにし礼の「赤い月」がある。

昭和二十年八月九日、牡丹江市警察署に、ソ連軍女スパイの告発書が届く。関東軍御用達の清酒会社として栄華を誇った森田酒造のロシア語の家庭教師、エレナの処刑で、森田家の苛酷な逃走劇の幕が上がる。ソ連軍が参戦、戦車隊が侵攻して、街が蹂躪されるのは時間の問題だった。日本の敗戦を確信した満州人による略奪も始まっていた。

当主の森田勇太郎は酒造組合の理事会に出席するために新京（現、長春）に出張して

いて留守だった。妻の波子に、森田家の命運が託される。森田夫妻の子供である十四歳の美咲と七歳の公平、そして三人の若い女中たち。公平が作者の分身である。

牡丹江の駅前広場は、避難民でごった返していた。東寧からの待望の列車が入って来ても、市の関係者や軍、満鉄社員の家族などで満員、乗車できない。

波子は、エレナを処刑した水室を頼って、軍用列車に乗る特別許可証を手に入れた。水室は取引先の社員を装っていたが、関東軍情報部特務機関に所属する軍人だった。森田家一行は列車に乗ることができたが、周囲の軍人の家族たちは場違いな民間人の闖入に不快感を隠さない。走行中にソ連機が来襲、機銃掃を浴びて死傷者がたくさん出た。再び動き出した列車を停車させて死者を埋葬している時間はない。



「……窓や出入り口から、人間の死体がこぼれ出て、ぼとりぼとりと大地に落下した。（中略）黒い綿入れを着た満人たちが大勢どこからともなく現れ、投げ出された死体に群がり、かたっぱしから衣服を剥ぎとった。」（「赤い月」より）

もはや地位や階級、恥も外聞もなかった。トイレがないので男は小便小僧のように窓から排尿して、女は両手を男たちに支えてもらって、窓から裸の尻を突き出して排泄した。再びソ連機の襲撃を受けた軍用列車は大破し、代用の貨物車に乗り換えることになる。石炭や木材を運ぶ無蓋車で、トンネルに入ると煤煙で顔が真っ黒になった。途中、避難民の群集に遭遇する。匪賊やソ連軍に襲われ、着の身着のまま、食うや食わずでたどり着いた近隣の開拓団だった。

せめて病人だけでも乗せてくれという懇願を拒絶して、汽車は動き出す。開拓民たちは汽車を追いかけ、しがみつこうとする。その手を、波子は懸命に振り払った。「自分の非情さにあきれ果て、自己嫌悪で顔が歪んだ。」（「赤い月」）

からも、帰国できるまでの一年間、地獄のような日々が待ち受けていた。

作者は、自伝とも言えるこの小説が書きたくて、作家になったのだという。作詞家としての最初のヒット曲が黛ジュンの「恋のハレルヤ」。

ハレルヤ 花が散っても
ハレルヤ 風のせいじゃない
ハレルヤ 沈む夕日は
ハレルヤ 止められない

この歌詞には、満州での体験が込められていると、後年、作者は告白している。そういう前提で口ずさむと、国策に翻弄された人々の悲哀が染み出してくる。

「赤い月」では、被害者としての満州移民だけではなく、自分の夢や欲望を満たすために大陸に渡って、満人から土地や財産を奪った加害者としての日本人も描かれている。

時代の大きなうねりに、個人は無力である。しかし、時代のうねりを生み出すのは、個々人の意識であると思う。国が悪い、世の中が悪い、だけでは流されるだけだろう。未来のためにも、過去のことを忘れてはならないのだ。それが辛いことであっても、都合の悪いことであっても。

有吉佐和子『複合汚染』

環境汚染への覚醒

70年代は、高度成長の光と陰が露わになりました。政治家田中角栄が登場し、列島改造のバラ色をぶち上げる一方、成長の歪みとしての公害が顕在化しました。公害告発の一翼を担ったのが、環境汚染を同時並行的に描いてみせた有吉佐和子『複合汚染』（新潮社、75年刊）でした。朝日新聞の連載小説として74年から翌年まで9ヶ月、途中で現地を訪ねるといふやり方で書き継ぎ、連載中から大きな反響を呼びました。

作品は、戦前からの婦人運動を牽引した市川房枝の参議院選挙の選挙運動で始まります。「私」は、「市川先生」に呼び出されて、立候補者「紀平梯子（ていこ）」の選挙カーに乗ります。紀平は、食品添加物の危険などを訴えるが、浸透しません。「私」も応援演説で食の不安を訴えるうちに、農薬禍を深刻に考えるという格好で、『複合汚染』は展開します。

どうも、市川房枝を軸に婦人解放の流れを描こうとして、途中で環境汚染のテーマに方向転換したのではないのかと思えてなりません。そこ

はストーリー・テラー。読者には何も悟らせず、ぐいぐい引っばっていきます。

境に入ります。複合汚染とは、要約すると「二つ以上の毒性物質の相加作用および相乗作用。私たちは、1日何百種類もの農薬や添加物の入った食品を食べ、排気ガスや工場の煙で汚染された空気を吸って生きている。口に入る量

また読んでみたい本⑤9

青年たちに

音谷 健郎



【徳間書店版の表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介しています。

第59回は、有吉佐和子の『複合汚染』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

農薬汚染に向き合った途端、DDT、BHC、PCBなどの用語がばん

ばんと飛び出しますが、身近なものにたとえて易しく説明し、読者を飽きさせません。やがて食品衛生学の学者の口から「複合汚染」という言葉が出て「私」は愕然とし、話は佳

はごく微量だが、水に溶けにくい物質は身体の中に溜まる」

「この結果、人類にどんな影響を与えるかについて、全世界の科学者にはまだ何も分かっていない」。まるでアジ演説のようなキツパリとした口調です。

これには背景があるのです。実は有吉佐和子は作品中で、13年前から公害について書こうと準備に入っていたが、石牟礼道子『苦海浄土』が出るに及んで、自分の構想が色あせたと明かしているのです。

作品では「土が死んでいる」と言う農家の言葉に衝撃を受け、農薬の功罪、農協の役割、米国による化学兵器の除草剤転用へと進みます。

環境汚染への警告書である『沈黙の春』の作者レイチェル・カースン女史が主張する海の汚染と魚の死に行き着き、視界は広がります。

連載の反響が深まる中で、この作品は小説なのか、ノンフィクションなのかという関心も起こりました。文芸評論家の奥野健男が「たとえば従来の小説の態をなしていなくとも、『複合汚染』は、現代に生きる文学者の魂がほとぼしりあふれている純粋な文学作品と言えよう」と断を下しました。

いま、コロナ騒ぎで閉塞状態とはいえ、それ以前からも、日本の女性の作家の作品は「内向き」になり、有吉佐和子の“社会派”路線を継ぐ人脈がないのがさびしい限りです。今回は、沢木耕太郎『テロルの決算』を取り上げます。



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「沢田マンション物語」

古庄弘枝 著 情報センター出版局

JR 高知 駅から車で 10 分の 5 階建て、設計図なしで沢田夫婦だけで建てたマンションだ。一つとして同じ間取りの部屋がない。何階にいても 1 階にいるような生活にしたいと、各階に土を入れ 15 種以上の樹木が植えられている。仕切りのないベランダは遊歩道で、花壇が設

てある。そして屋上には畑と水田も。「郵便配達夫シュヴァルの理想宮」とも比較され、建築の専門家の評価も高い。沢田嘉農さんは 12 歳でアパート経営を決意、進学せず大工にも弟子入りせず独学で家を建て始めた。32 歳で 13 歳の裕江さんと結婚、夫妻の物語も波瀾万丈、地下 28 メートルの井戸も自力で掘ったモレツ夫婦である。



「暁の超特急」

辺見じゅん 著 松江今井書店

東京オリンピックの陸上 100 メートル、ロケットスタートの飯島秀雄の名前は今でも覚えている。その師匠が、暁の超特急と言われた吉岡隆徳だ。1932 年のロサンゼルス・オリンピックで 6 位入賞。日本人が 100 メートルの決勝に進出したのはこれが最初で最後。その後も記録を伸ばして、世界タイ記録を 3 度も。

島根の寒村で生まれた吉岡は、自分でトレーニング方法を考えて鍛錬、165 センチの身体で世界と戦った。引退後に教育者となった吉岡は、広島で原爆に被災している。強大な壁に何度も叩き潰されても立ち上がる精神力。読後、目覚ましを 1 時間早くセット、努力に年齢は関係ないのです。



「善人は、なぜまわりの人を不幸にするのか」

曾野綾子 著 祥伝社黄金文庫

挑発的なタイトルに惹かれて読み始めた。あるテーマに絞って、作者の過去の作品を抜粋するという形式になっている。例えば、「相手を疲れさせる見当違いの情熱」という小見出し。【「善意ほど困るものはないのよ」私は言った。「善意を否定するのは、むずかしいね、って僕は言ってたところなんですけど、善意はやっぱりよくないですか」「否定はしません。ただ、善意の持ち主はいい気分



で、こちらは深く困るだけなの。】(一枚の写真)。大変な時代を生きる、いや、生き残るための提言や知恵がたくさん。曾野綾子の本がたくさん出て、当店でもよく売れる。その理由がわかったような気がする

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣 (店内専用通貨) であれば半額、現金であれば 3 割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入 ⇒ 読了 ⇒ どら紙幣と交換 ⇒ 新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

比婆山連峰の自然(4)

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びとと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

最近、外来鳥で国内ではペットとして飼育されているソウシチョウ *Leiothrix lutea* が逸出し、野生化している。比婆山も例外でなく、2008年5月から2010年10月まで、20回の調査で、比婆山では標高

800m以上の林床がイブキザサに覆われた落葉広葉樹林に夏の間、ソウシチョウの群が定着していることが明らかにされている(荒木、2011)。そして、比婆山のソウシチョウは2012年にも確認されている(漆谷、2012)。吾妻山の場合は、2015年と2017年、植物調査の折、しばしば、野生化した群と遭遇しているから、比婆山連峰一帯のイブキザサに覆われた落葉広葉樹林に拡がっていると考えられる。ソウシチョウの定着による比婆山連峰の鳥類相への影響も今後注意する必要がある。

4. シバ草原

シバ草原は、ブナ林の伐採跡地を和牛の放牧地として利用したため、形成された植生で、放牧が続けられた結果、シバ草原がスキ草原↓低

木林↓二次林へと遷移していくことが阻まれ、シバ草原のまま、持続している植生である。このシバ草原は竜王山の山頂の平坦地、大膳原、吾妻山の南西斜面、吾妻山の山頂から南ノ原へかけての斜面に見られた。「見られた」という過去形というのは和牛の放牧が行なわれなくなった現在、シバ草原↓スキ草原へと遷移し、ところによっては低木林↓二次林へと遷移しているからである。

特に吾妻山の南西斜面のシバ草原場合、写真1に見られるように広い範囲がシバ草原で、そこには所々にレンゲツツジやイヌツゲの低木叢が散在し、あたかも日本庭園を想わせるような景観を呈しているところから「斑状群落(庭園状群落)」と堀川・佐々木(1950)が命名している。この吾妻山のシバ草原は、原池から鉄穴(かんな)井手が採掘された小坊主から南西へ延びる稜線まで拡

がっていた。写真2から吾妻山南西斜面のシバ草原はきわめて広範囲であったことがわかる。そして、小坊主の稜線とその北東斜面、鉄穴井手跡の一部に



写真1 吾妻山の南斜面、原池—小坊主・小弥山登山口 (1975年8月撮影)



写真2 山頂から撮影された吾妻山南西斜面 (吾妻山植物誌による)

斑状群落が見られる。

吾妻山の放牧が中止されたのは1995年のこと、中止されてから、わずか24年（2019年現在）、吾妻山の景観は大きく様変わりしている。

写真1と写真3と比べてみてわかるようにシバ草原の消滅に伴い、斑状群落が失われている。そして、ユーラシア原産の外来植物であるハルガヤ草原となっている。写真3の中央に帯状の裸地が見られるが、これは登山者の踏み圧でハルガヤの生育が阻まれているところで、左方の緑色



写真3 小坊主から小弥山登山口までの景観
(吾妻山植物誌による)

の登山口あたりは登山道のごく近くまで落葉広葉樹、特にウリハダカエデの若木が迫り、かつて寺床から吾妻山へ直登する登山道があつてそこまでシバ草原であつたが、放牧される和牛の頭数が減少するにつれ、徐々にシバ草原→ススキ草原→低木林→二次林へと遷移し、現在は寺床の中心部に僅かネザサが覆っているだけで、残りの多くは低木林→二次林へと遷移している。1970年後半のころ、寺床の奥から原池へ向けてスキーヤーはスキーを楽しんでいたことを思うと、隔世の感を覚える。小弥山への登山口から下って小坊主一帯の1974年ごろは、小坊主の北斜面まで広くシバ草原であつたが、現在は小坊主の頂部まで点状に延びる低木叢を越え、低木林となつており、それは小弥山の登山口近くで著しい。そして、小坊主頂部のシバ草原は消滅し、斑状群落も消え、小坊主の南東斜面から続く平坦部まで、ハルガヤ草原となっている。原池に近いあたりは湿地でそこにはキセルアザミが残り、アケボノソウ・エゾシロネも見られる。

「つれづれ歌談」⑩

松岡 初枝

草萌える春がやって来る頃、歌詠み達は心うきうき、野や山に出て生命の美しさ、たくましさの様々な姿を歌にしました。

・石（いわ）走る垂水（たるみ）
の上のさらわびの萌え出づる春になりにつけるかも

志貴皇子（しきのみこ）

石走るは、垂水（滝）に掛かる枕詞です。水温む頃、勢いよく流れ落ちる滝のほとりの新芽のわらび、ああ春が来たなあ……。自然の生命力を詠んだ傑作です。志貴皇子は、天智天皇の第七皇子ですが、兄である大友皇子と、叔父である大海人皇子（天武）が、壬申の乱で争ったり、父の従弟である有間



皇子や、自分の従兄である大津皇子の政治的悲劇に嫌気がさし、政争に組みみせずに、生命の尊さを詠むことに意義を感じて人生を送った人です。

・うらうらに照れる春日に雲雀（ひばり）あがり情（こころ）悲しも独りし思へば 大伴家持

うららかなひばり鳴く春、恋しい人に会えない寂しさが一層ついつつしてしまうと言うのです。そんな春の日の憂いを家持が詠めば、
・この里に手まりつきつつ子供らと遊ぶ春日は暮れずともよし

良寛

良寛さまは、陽が長くなった春、里に住まう子供達と屈託なく遊ぶ楽しさ、子供達と居ると若い力が湧いてくると詠みました。

・春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかと外（と）の面（も）の草に日の入る夕（ゆうべ） 北原白秋

なくそは、くしてくれるなという意味で、夕方は寂しいから鳥よ鳴かないで、と言っています。白秋の詩歌はどこか寂しさが宿りま

す。
春の楽しさ、春の憂い、されど春です。

桜が満開になる季節になると、姿を現す人物がいる。古本屋仲間は、敬愛を込めて「花咲か爺さん」と呼んでいる。

(そろそろかな)

当地には、桜の名所、上野公園がある。周囲約四キロメートルの大池、上野池の周囲を中心に植えられたソメイヨシノは六百本、日本さくら名所百選にも選ばれている。

雲一つない青空の日に、山咲さんはやって来た。小柄だが、骨太のがっちりした体格をしている。年齢不詳、白髪を短く刈り上げて、八十過ぎの老人のようにも見えるのだが、よく見ると顔のしわはあまりなく、色白の肌も滑らかで、青年のような表情を見せることもある。

山咲さんは、はにかんだ顔で会釈すると、抱えて来た段ボール箱を、ガラス製の陳列ケースの上に置いた。

函入りの「芸藩通志」の五冊セットが見えた。広島藩が編纂した地誌で、藩内の地理や文化、歴史が記してある。国書刊行会が昭和五十六年に復刻した本で、ハトロン紙のカバーも健在で美本である。

同じく広島藩の「芸藩土産図」。江戸時代中期に幕府の求めに応じ

て、藩内で産出する動植物を实地調査したもので、平成七年に復刻した。繊細で美しい絵がすばらしい。上・下・解題の三冊セットで、和装・帙入りの限定版だ。

沖井千代子の「ひばだこがंबर」、
「ホタルとぶ」、菊池澄子の「怪物ヒバゴン」等々、今では手に入れることが難しい、地元を題材にした児童書も入っている。

花咲か爺さん

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑤⑤

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

すべての本を確認、査定し終わる頃には、店内の巡回を終えた山咲さんが、再び姿を現した。

「さすがですね」

心からの感嘆だ。山咲さんがニッコリ笑って、使い込んだプラスチック製の買い物かごをガラスケースの上に置いた。はみ出るほどの本が入っている。最初の頃は、いささか抵抗を覚えた。自分のつけた価格を否定

されたような気がした。今では、ありがたいことだと感謝している。

人によって、店によって、あるいは地域によって、本の価値が異なるのは当たり前のことなのだ。地方の古本屋で、百円本の棚で埃をかぶっている本が、ある人にとっては何十年も探していた本だったということもある。

山咲さんは、セドリを生業（なり

き取るから「背取り」という説もある。一瞥しただけで、躊躇なく本を抜き取って行く山咲さんを見ていると、「背取り」の方がふさわしい気がする。しかし、膨大な本の知識と顧客のデータが頭に入っていないくは、こうはいかない。

最近では、ネット販売での転売をセドリ、転売する人をセドラーと呼んでいる。マスクを高値で転売したり、ゲームソフトなどの限定品にとんでもない値段をつけたりするので、印象は悪い。山咲さんのような古本屋に棲息するセドリ師は、もはや絶滅危惧種なのである。

「貧乏なので、本が買えなくてね」

口の重い山咲さんが、少量の酒で口角がゆるんだのか、セドリ師になったきっかけを話してくれた。雨が降ると花見ができないので、二度ほど泊まってくれたことがある。

本が大好きで、古本屋に行く時間を忘れて楽しめた。新刊本の本屋は立ち読みしていると嫌な顔をされるが、古本屋の店主は大らかだった。それでも、タダ見は気が引けるので、均一本のワゴンから一冊、買うのが習慣になっていた。その廉価本の中に、他店で高値がついている本があった。



「いい値段ですね」
「作者のまだ人気が出る前の作品で、増刷ではなく初版だからね。帯もあるし、本もきれいだから」

古本お売りくださいー、帳場の貼り紙に後押しされて、初めて本を売った。買ったときの五倍で売れた。「どうして、桜の花を追いかけているのですか？」

直截に訊いたことがある。山咲さんは、満開の桜を追いかけて北上している。古本屋に立ち寄るのはつい

でのようなもので、桜の名所のそばにある古本屋が条件になる。うちのよな田舎の小さな古本屋に来てくれるのも、上野公園のおかげだ。

山咲さんはしばらく考えていた。「理由は……、とくにありません」
それからしばらくまた沈黙した。「桜が好き……、なのでしょね」
そう言って、少年のようなはにかんだ顔をした。

山咲さんには、古本屋仲間できさやかかれている「伝説」がある。不治の病に冒された奥さんが、テレビニュースの桜の開花宣言を見て、桜の花が見たいと言った。担当医は、花見まではもたないだろうと言った。

「じゃあ、桜が咲いている処まで、花見に連れて行けばいい」
知り合いに借りたワゴン車にマットレスや布団を積み込んで、奥さんと二人で九州に向かった。助手席に坐っているのが辛くなれば、荷台に敷いた布団で休んだ。

長崎県松浦市の大山公園で、伊万里湾に浮かぶ島々を背景に満開の桜を愛でた。青白かった妻の頬が、ほのかにピンク色に染まっているのは、花びらの反射だろうか。満開の桜を追いかけて北上した。その旅は、

とうとう北海道まで続いたという。桜が咲くまではもたないと診断された奥さんは、それからさらに二年、桜を愛でる全国縦断の旅に行くことができたという。

昼休憩を利用して、上野公園に出かけた。独りでやっているの、昼食のために三〇分、店を閉めるようにしている。平日なので人影はまばらだ。駐車場に山咲さんのブルーの車を見つけた。旧式のスバルサンバー、助手席には、四角い箱のようなものに桜色のカーディガンが被せてある。奥さんの遺骨が入っているのだろう。

車を降りて、池の沿道にある桜並木の下を歩いた。満開の桜で枝がしななって揺れている。山咲さんの姿が見えた。声をかけようとして、隣にいる女性に気づいた。三十代半ばの細面の上品な女性だ。羽織っているカーディガンの色に見覚えがあった。

(あれは車の助手席の……)
女性が話しかけて、山咲さんが破顔した。一瞬、白髪が黒くなり、生真面目な文学青年の顔が浮き上がった。山咲さんの背中を見送ると、寄り添う女性の姿が消えているー。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 15,000円 >

どらくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

落花いま蝶々の時間地上まで

近藤 昌平

牧の坂上りきるまでいぬふぐり

富久光

さくら咲く後いく度の花見かな

片岡 正人

血圧の数字を記し春を待つ

隆愚

洗車機の一気に春泥落しけり

大槇 三代子

オオイヌノフグリで尿する野良の猫

赤川 冬人

春の陽をふわり握りて露の臺

松岡 初枝

苦さも馳走ビールが旨し

投稿&寄稿

候のことば

「春眠暁を覚えず」

隆愚

この言葉は「朝が暖かくなり、つい寝坊してしまった」というニュアンスでいわれますが、本当は、ちよつと違います。

もともとは昔の中国、唐の時代の

孟浩然（もうこうねん）という詩人が書いた詩の一節で、「夜明けが早く、いつの間にか朝が訪れるなんて、つくづく春だなあ」という意味。長い冬を越え、朝の訪れが早まる春。めざめると鳥が鳴き、日が降り注ぐ、陽気に包まれた季節のよろこびに満ちています。

「休業期間」

赤川仁洋



毎年二月のどら書房休業も、今年で二回目。店頭でも半月前ぐらいから貼り紙をしたり声掛けして告知しているのだが、それでも気づかずに来店される方がいる。申し訳ないとは思いつつ、門前払いの形になってしまふのだが、当店の恒例として認知していただくことを願っている。その分、定休日以外は年末年始でも開店するように心がけている。棚の増設や在庫整理等々、やらない

くてはいけないことが山積みで、終わりが見えない消耗戦になってしまった。母親の介護をしていた六畳間が空いていたので、整理できない古本の入った段ボール箱を積み上げていたのだが、それを書庫に改装するのが今回の第一目標。段ボール箱を運び出す時間もスペースもないので、箱をさらに強引に積み上げて、空いたスペースにカラーボックスをいくつも連結して収納棚を作る。そこに箱の中の本を収納、これを繰り返して書庫らしきものが完成した。組み立てたカラーボックスは約三十個。これがいちばん安上がりで簡単。今後は、収納しきれない本が出たときは、その分、廃棄する必要があると自分に言い聞かせた。道楽半分の商売とはいえ、このままでは在庫に押しつぶされてしまう。そのためには、どんな本があるのか整理&把握しておく必要があるのだが、時間切れで、今後は開店しながら少しずつやるしかない。それにしても、なんだか古本屋らしくなつたではないかと、ちよつぷり誇らしい気持ちになつてくる。来年の二月はコロナ禍も収まって、仕入れ半分、観光半分で遠出できればと願っている。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

● **一 硬式テニス参加者募集 一**
MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
・土曜日 (10:00 ~ 12:00)
● 連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



第5回 庄原さくらフェスティバル

今回は新型コロナウイルス感染防止のため、飲食については「全店テイクアウト販売」です。そのほかにも予防対策を実施しますので、ご協力をよろしくお願ひします。

開催日：4月11日(日) ※雨天決行 時間：10時～15時
場所：庄原市上野総合公園 (芝生広場)
問合せ：庄原さくらフェスティバル実行委員会事務局
(庄原商工会議所内・0824-73-0602)



選に
上野公園の桜

夜はぼんぼりが灯ります

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室&講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- ※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品の展示販売を、どら書房の一角でしています。
茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を展示しています。あなたのお気に入りの逸品が見つかるかもしれません。
※天井が低いので頭上注意!

どら書房無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売(値札のないものは百円均一)。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

●黒ニンニク好評販売中!●
(青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの効果が期待できます。

(80g入り 500円)

※売り切れのときはご容赦ください。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@nifty.com
年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

編集後記

◇本誌も六年目に入ります。巻頭の「赤い月」は、当初は今月の三冊で紹介するつもりだったのですが、それではもったいないと判断して「番外編」として書かせていただきました。た。当事者の生々しい迫力が伝わってきます。

◇さくらフェスティバル、今年も開催。感染症予防に注意しながらも、田舎町では徐々に日常生活が戻ってきている感があります。ただし、首都圏が落ち着いてくれないと、オリンピックどころではないです。ね。

◇地震や災害は困りますが、平穩のありがたさを再認識させてくれます。気温が不安定な木の芽時、お身体ご自愛下さい!

第 239 回

しょうばらくんちいち 「庄原九日市」

令和3年4月9日（金） 9:00～13:00

庄原九日市とは？

天正年間（440年前）に物々交換で始まった市（いち）

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

4月8日～10日 10時～15時

お家で手遊び（折り紙ほか）展

★どら書房 →休憩所あります！！

月曜日と火曜日はお休みです。

但し、九日市の日には営業します。

★楽笑座で「まかない食堂」中 止

★楽笑座で「うた声喫茶」中 止

★きくや →総菜とお寿司の店頭サービス！！

★風龍 →九日市スペシャルで餃子200円！

出店配置図



②屋台屋

③文屋

④お福郷屋

⑤工房アム
ぬくもり
ちくちくはうす玉手箱
832gの奇跡

⑥美・sfida・三次サロン
和み屋
クラフトショップ
Room of keiko

⑦農楽会

⑧とらぢ
二八そば加工所
アーミッシュ
さだっさ
健康企画
ふくふく牧場
17KITCHEN

⑩克國水産

⑪キャサリン

⑫どら書房

⑬久代水産
くんえん工房 香豚
吉備路花田FF

⑭まなべ商事

⑮どんぐりーず
宮川屋
佐藤園芸
田崎屋

⑯お休み

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp/>

